

令和5年度（第15期第7回）小平市廃棄物減量等推進審議会 会議要録

1 日時

令和5年9月22日（金） 午後2時～午後4時

2 場所

小平市リサイクルセンター 2F 多目的ルーム

3 出席者

○小平市廃棄物減量等推進審議会委員 17名

山谷修作会長、渡辺浩平副会長、青野敬吾委員、浅野薫委員、伊東恵美委員、出雲崎暁子委員、太田佳子委員、岸野好江委員、木村源一委員、先山厚子委員、下條隆久委員、武田直子委員、丹治由紀子委員、内藤新司委員、茂木勉委員、林周子委員、山倉尚委員

（欠席）吉浦高志委員

○事務局 6名

環境部長、資源循環課長、資源循環課長補佐、資源循環課推進担当係長、資源循環課推進担当2名

4 傍聴者

0名

5 議事

小平市一般廃棄物処理基本計画（改定）の数値目標等（令和4年度実績）

令和4年度歳入歳出報告

小平市一般廃棄物処理基本計画に定める重点施策の推進について

6 配付資料

小平市一般廃棄物処理基本計画（改定）の数値目標等（令和4年度実績）

資料1

目標指標推移（令和4年度実績）

資料2

令和4年度歳入歳出報告書

資料3

不法投棄監視・資源物持ち去り監視パトロール実施報告

資料4

出前授業実施報告

資料5

マイバッグ講習会、わくわくバックヤードツアー実施報告

資料6

7 内容

<議事>

(1) 小平市一般廃棄物処理基本計画(改定)の数値目標等(令和4年度実績)

(2) 令和4年度歳入歳出報告

(事務局)

資料1、2について、小平市一般廃棄物処理基本計画(改定)の数値目標等(令和4年度実績)及び、資料3について、令和4年度の歳入歳出について説明。

(浅野委員)

資料3の歳入「資源回収売払金」が1億5千万円ほどあるが、具体的にはどのようなものを売払いしているのか。また、人口10万人以上50万人未満の自治体とあるが、どれくらいの自治体数があるのか。

(事務局)

売払いをしている資源物は、アルミ缶・スチール缶・ビン・古布・なべなどの、リサイクルセンターで中間処理を行っているものがある。金額が大きいものはカン類で、単価も高い。人口10万人以上50万人未満の自治体数については、把握していない。

(木村委員)

リプレこだいらでの売上金は、市には歳入として入ってくるのか。

(事務局)

リプレこだいらでの売上金は、すべてシルバー人材センターへ入っているため、市には歳入として入っていない。勤務している人の賃金や修理を行うための材料費となっている。

(木村委員)

粗大ごみを出すための金額(200円や1,000円など)は、市に歳入として入っているのか。

(事務局)

粗大ごみ処理手数料として、市に歳入として入っている。資料3のグラフにも含まれている。

(渡辺副会長)

資料1の1(2)の多摩地域での順位は、ごみが少ない順の順位か。また、2(4)の最終処分量は、全量エコセメントになっているため、実質的には最終処分はしていないという理解でよいか。

(事務局)

お見込みのとおりである。

(青野委員)

資料1の2(2)の事業所から排出されたごみが増加しているが、どういった理由か。また、令和5年度より事業系ごみの手数料を上げたが、この影響はあるのか。

(事務局)

新型コロナウイルスが落ち着いてきて経済活動が戻ったため、店舗等の活動が活発になり事業系のごみが増えたのではないかと分析をしている。

手数料の改正をおこなったのは令和5年4月からのため、4～7月くらいまでの実績しか出ていないが、歳入は増加している。最終的な歳入も増加すると見込んでいる。また、手数料を上げたことで、小平・村山・大和衛生組合ではなく、民間の堆肥化・エネルギー化工場へ持ち込みを開始したスーパーなどもいくつかある。

(渡辺副会長)

事業系ごみの量は減少傾向にあるのか。

(事務局)

経済が活性化してきているので、全国的には増加傾向にあるのではないかと。小平における増減についてはまだ把握できていないが、持込先を変えている企業もあるので、手数料改定の効果はあると考えている。

(山谷会長)

月次でどう変化しているか示していただけるとありがたい。小平市ほどの値上げ幅だと、他の自治体では10数%の減量効果が出ている。

(先山委員)

売却を行っている資源物は、どのくらいの金額で売れているのか。減量意識につながるので、広報で使いたい。

(事務局)

細かい数値となるので、後日お示しする。

(3) 小平市一般廃棄物処理基本計画に定める重点施策の推進について

(事務局)

基本計画の第5章に掲げている基本方針3及び4の概要について説明。

(山谷会長)

あらかじめ提出のあったアイデアシート(基本方針3-①部分)につき、内容を簡潔に説明。

(先山委員)

リサイクルセンターやリサイクルきやらばんに、綺麗な陶磁器がたくさん持ち込まれている。

リユースできそうなものがたくさんあるので、リサイクルセンターでの「食器掘り出し市」のスペースを広げていただけないか。

食物資源循環事業への参加条件をもう少し緩くしていただけないか。ごみが再資源化されて非常に良いことなので、拡充してほしい。

生ごみ処理機の補助金制度は、他自治体ではどの程度実施しているのか。

(山谷会長)

小平市における食物資源循環事業は、多摩地域の自治体の中でも取り組みが進んでおり、他自

治体でも小平市を参考に事業を始めたところもある。参加世帯数も 1,250 世帯と多く、委員の意見も参考にしながら、事業を継続していただきたい。

(先山委員)

生ごみ処理機の補助金の他自治体の状況はどうか。

(事務局)

都内の区市では、半分強の自治体の実施をしている。

(先山委員)

補助金としてかかる費用はどれくらいか。

(事務局)

1 件あたり最大 3 万円の補助金を基本としている。昨年度の予算額は 200 万円。

(青野委員)

電気式の処理機はカートリッジなどの消耗品費もかかるのか。

(山谷会長)

処理機のタイプによってはそういったものもあるが、一般的には少ないのではないか。

(渡辺副会長)

食物資源循環事業は、収集コストをもう少し下げることができれば、より多くの世帯が参加するのではないか。また、公共施設に一次処理機を設置するなどし、そこに生ごみを持ってきてもらうようにすれば、毎日収集する必要もないので、コストを下げられるのではないか。

紙パック・トレイなどの店頭回収は、拡大生産者責任の観点からも働きかけていただきたい。

(山谷会長)

雑がみ袋の配付や、資源の回収拠点の拡充など、効果的な施策が多くあるので、広報を積極的におこない、認知度を高めていっていただきたい。

(山谷会長)

アイデアシート(基本方針 3-②部分)につき、内容を簡潔に説明。

(先山委員)

クリーンメイトが他のお宅の分別指導をすることはできかねる。また、持ち去りは見たことがない。

(山谷会長)

戸別収集に移行してから、持ち去り等は減少したため、イベントでのボランティア等の参加をしていただけたらよいのではないか。

(渡辺副会長)

小平市ではクリーンメイトは何人いるのか。研修会などはおこなっているのか。

(事務局)

人数は20名ほど。連絡会という会議を年に3、4回程度おこなっている。

(山谷会長)

アイデアシート(基本方針3-③分)につき、内容を簡潔に説明。

(武田委員)

家庭系の展開検査はやっていないのか。

(事務局)

展開検査は事業系がメインとなる。家庭系は、収集時に分別が不適切なものと警告シールを貼付しているため。

(山谷会長)

集合住宅では、ごみに警告シールは貼付されたまま残ってしまっていることがある。その点、収集袋への記名制は有効である。

(事務局)

小平の収集袋にも記名欄はあるが、利用は少ない。今後は、集合住宅等での排出の際に、部屋の番号のみ記入してもらうなどの運用が考えられる。

(山谷会長)

アイデアシート(基本方針4)につき、内容を簡潔に説明。

(太田委員)

ごみの排出がひどい人がいる。生活保護受給者などには収集袋を無料で配布しているのか。また、排出する人が介護している人などの場合もあり、そうした人は排出方法を知らない場合もあると思うので、気になる。

(山谷会長)

市民同士でごみ出しの指導をしようことは難しいので、指導に関しては行政にお願いせざるを得ない。

(事務局)

市内でもごみ屋敷やひどい排出の通報はある。その際は、市職員が指導に伺うこともある。粘り強くやっていくことが重要であると考えます。

生活保護受給者などに収集袋を支給しているが、枚数は決まっているので、無尽蔵に使えるわけではない。

(山谷会長)

集積所へのカメラの設置について、要望のあった自治会に貸与する自治体も増えている。小平市では設置等しているのか。

(事務局)

設置はしていない。戸別収集移行後に、集積所への不法投棄の相談があった場合は、「不法投棄禁止」という看板を渡している。

(渡辺副会長)

小金井市では、水銀体温計を市役所に持ってきていただくと、電子式の体温計と交換してくれる啓発をおこなった。リチウムイオン電池についても、取り外したらなにか差し上げるといったインセンティブが必要になってくるのではないだろうか。

(事務局)

リチウムイオン電池による収集車の火災は、今年度に入ってから数回発生している。ホームページではその都度火災があったことを掲載している。また、収集車の正面に装着する啓発用のマスクを、10月より新しく充電式電池の火災が発生している旨のデザインとした。

(先山委員)

リチウムイオン電池がどういった製品に入っているのかが認識されていないと感じるので、身近な品目を例に挙げて広報していただきたい。

(事務局)

リチウムイオン電池を使用している品目は、数多くあるので全ての品目を網羅することは難しいが、火災が発生した際は、その都度広報していくべきだと考える。なお、充電式電池が入っているが取り外しができないものについては、公共施設の小型家電回収ボックスに入れていただくよう案内をしている。

(山谷会長)

充電式電池の取り外しと分別は、地道に啓発していくしかない。

(渡辺先生)

災害が発生する前に、町内会長や自治会長に対して、災害廃棄物に関してのお願いをしていただいた方がよいと考える。発生してからでは大変になるので、前もって分別など広報できたらよいのではないかと。

(事務局)

今年度中に、災害廃棄物の処理マニュアルを策定する予定。仮置き場の選定方法や、発災時のごみ処理方法などについて定める。災害時にどのように市民が動くかを予め周知しておくことは重要だと考えている。

(山谷会長)

災害廃棄物処理計画を策定したが、なかなか読む人は多くないと思う。ポケットに収まるような分かりやすいものがあるとより読んでもらいやすくなる。

(出雲崎委員)

多くの人が使っているハンディ扇風機だが、分別アプリで検索しても出てこない。アプリの検

索機能については、こまめに更新していただきたい。

(山谷会長)

周知啓発のための方法について説明。

(青野委員)

収集袋の裏面のスペースが空いているので、その袋に入れられるものをイラストを入れて、外国人にも分かりやすくするなどの工夫が必要と考える。

(山谷会長)

自治体の啓発は住民に届きにくいものであるため、工夫をしていくことが重要。

<報告>

(事務局)

不法投棄・持ち去り監視パトロール、出前授業、マイバッグ講習会、バックヤードツアーについて報告。

(渡辺副会長)

小学4年生のリサイクルセンター見学は、今年度4校とのことだが、他の学校はどういったところに行っているのか。もう少し学校に対してのPRをしてもよいと感じる。また、出前授業は4年生対象ということだが、他の学年でも依頼があれば実施は可能なのか。

(山倉委員)

4年生の授業で廃棄物の授業があり、リサイクルセンターの見学はこれに基づきおこなっている。市内施設の見学は3年生でおこなっているため、4年生の社会科見学は都心の方に行くことが多い。

